

マレーシアの情報

図書館

マレーシア国立図書館 (<http://www.pnm.gov.my>)

無料で三年間有効な入館証発行（事前オンライン登録可）。OPAC 検索可。一部貸出可。
コピー、マイクロフィルムの印刷可。

専門書が多いわけではないが、最初のアクセス先として良い。

Malaysiana と呼ばれるマレーシア関連資料コレクションあり（逐次刊行物、書籍、地図、
法令、官報、貴重書、マレー語写本など）

デジタル化も進んでおり、ポータルサイト経由で各新聞社のデータベースにアクセス可。

マレーシア国立文書館 (<http://www.arkib.gov.my/web/guest/home>)

首相府経済企画庁発行の調査許可要（申請書に文書館利用の記載要）。

一年間有効の利用証。コピー、マイクロフィルムの印刷可（有料）

オンラインで文書検索も可能な模様。（使い勝手は不明）

連邦および州の行政機関ごとに分類された行政書類が中心。

マラヤ大学中央図書館

所属機関などからの紹介状+写真で利用証（三ヶ月更新）（有料）。

コピー、マイクロフィルムの印刷可（有料）。

OPAC 検索可 (http://www.pendeta.um.edu.my/client/en_AU/default)。

ただし、現物がない場合あり

修論・博論のカタログへのオンラインアクセス可。図書館で現物へのアクセス可。

ニュー・ストレイツ・タイムス・リソースセンター(NSTP Resource Centre)

入室料あり（時間制）。コピー、マイクロフィルムの印刷可（有料）

New Strait Times, Berita Harian, Malay Mail, Echo のバックナンバーが主題別に来るッ
ピングされている。製本版、電子版、マイクロフィルム版あり。

華社資料研究中心（Center for Malaysian Chinese Studies）附属集賢図書館
(<http://www.malaysian-chinese.net>)

入館証要（有料）。

80年代以降のテーマ別新聞記事スクラップあり。直近のものはスクラップなし

華語新聞、マレー語新聞、英語新聞

シンガポール国立大学マレーシア・シンガポール・コレクション

裏技。マラヤ大学より文献調査のためには使いやすい。

事前にメールで入館申請

本屋

Gerakbudaya (<http://gbgerakbudaya.com/home/>)

マレーシアの社会科学・人文科学関係の購入にはベスト。

オンライン購入可

マラヤ大学書籍部

マラヤ大学その他大学出版会の出版物あり。

Popular (<https://www.popular.com.my>)

紀伊国屋 (<https://malaysia.kinokuniya.com>)

MPH (<https://www.mphonline.com/en/home>)

この三書店は一般書店。専門書もあり。

新聞

英語紙

The Star (<https://www.thestar.com.my>)

元与党連合寄り

New Straits Times (<https://www.nst.com.my>)

元与党連合寄り

Malay Mail (<https://www.malaymail.com>)

マレー語

Utusan Malaysia (<http://www.utusan.com.my>)

元与党連合寄り

Berita Harian (<https://www.bharian.com.my>)

元与党連合寄り

Sinar Harian (<http://www.sinarharian.com.my>)

比較的中立

華語紙

星洲日報 (<http://www.sinchew.com.my>)

元与党連合より

東方日報 (<http://www.orientaldaily.com.my>)

比較的中立

オンライン・メディア

Malysiakini (<https://www.malysiakini.com>)

英語・マレー語・華語・タミール語版あり（言語ごとに編集が違う）

有料、調査報道では有力。

Malaysian Insight (<https://www.themalaysianinsight.com>)

英語・マレー語版あり

有料

Malaysia Today (<https://www.malaysia-today.net>)

英語・マレー語版あり

雑誌

The Edge (<http://digital.theedgemaalaysia.com/theedgemediagroup/?group=tem>)

経済系雑誌、オンライン版あり。

国家による検閲・監視

全体として国民連合（BN）が政権についていた時代の新聞紙は、国家の直接の検閲というよりも所有権の関係から与党寄りの報道をするか、ごくごく客観的な事実や、政府発表を繰り返していたのが基本。

一定の許容範囲を超えると、理由をつけて新聞やジャーナリストに圧力。

政権交代後も政府は新聞に関しては免許制度を維持。

ただし、それを撤廃する動きが進行中。

将来的には政府から独立した Media Council 設置予定。メディアのバイアスや不当報道監督。

旧 BN 政権下から紙の新聞とオンライン・ニュースサイトの自由度の違いが大きいのがマレーシアの 2018 年までの特徴。2018 年の政権交代後、全体として政府から独立した報道の増加。旧 BN 体制下では BN に批判的な報道が強かったオンラインメディアの Malaysiakini はナジブ前首相をインタビューするなど、今のマハティール政権からある程度の距離をとっている。政治的なメディア・コントロールは緩和。

フェイクニュースはツイッターやフェイスブックで合成写真が出回ることあり。しかし、インドネシアほどではない。

最近マレーシアでも「正しい」イスラーム的モラルへの圧力が強まっていて、報道やジャーナリストもそれを少し懸念しつつある状況が生まれつつあるように見えます。